

トラフグのふ化仔魚放流（2022）



※写真は昨年から水試で飼育しているトラフグ

今年度も昨年度に引き続き、与島漁協の岩黒島の漁業者、高松市瀬戸内漁協の漁業者がトラフグふ化仔魚放流を行いました。ふ化仔魚放流の取組みも今年で4年目となりました。

（トラフグの生態や漁獲量などの情報は、トピックスの[高級魚トラフグのふ化仔魚放流](#)をご覧ください。）

今年度は、1kLのアルテミアふ化槽を用いてふ化仔魚放流に取り組みました。

なお放流結果は、以下の表のとおりでした。

令和4年度トラフグふ化仔魚放流結果（令和4年度）

	採卵日	収容日	収容卵量(g)	収容卵数(粒)	ふ化率(%)	放流日	放流ふ化仔魚数(尾)
与島・瀬戸内分	4月20日、21日、22日	4月25日	1,140	684,000	68.7	5月5日	470,000
与島分	4月29日	4月29日	2,940	1,764,000	90.7	5月12日	1,600,000
瀬戸内分	4月29日	4月29日	2,460	1,476,000	64.4	5月11日	950,000

※1gあたりの基準卵数:600粒

○ふ化仔魚の放流

	
放流準備（船にタンクを積込む）（与島）	放流場所へ
	
ふ化仔魚放流の様子	今回、ふ化した仔魚、平均は 3.3mm 程度

今年度は、例年と異なり、産卵のピークがはっきりせず、4月20日から29日まで、卵が絞れ、かつ、無事に受精しました。ふ化率に関しても、今年度は毎回60%を超え、例年と比べ安定していました。今後も漁業者が自ら資源を増やす取組みが長く続いてほしいものです。

（文責 主任技師 林和希）